

生命科学講座セミナー

筋萎縮性側索硬化症（ALS）における TDP-43病理形成とその制御



- ・名古屋大学 環境医学研究所 病態神経科学分野 教授
- ・名古屋大学 副総長
- ・日本神経科学学会 理事長

日時 9月4日（金） 17:00～18:00

場所 講義棟 2F eクリニック

演者

山中 宏二 先生

講演要旨

運動神経変性疾患であるALSの病理学的特徴であるTDP-43病理形成のメカニズム解明は本疾患の理解の鍵であると考えられる。我々は、TDP-43の単量体化が本病理形成の上流に位置する重要な分子イベントであることを見出した。またALS原因遺伝子TBK1の活性が孤発性ALSで低下しており、TBK1がIFN- β 誘導を介して免疫プロテアソームを活性化し、単量体型TDP-43を分解することでTDP-43病理を軽減するという新規機序を見出した。TBK1活性維持と単量体TDP-43のクリアランスを通じたTDP-43病理の制御がALSの新たな治療標的として期待される。

※ 博士課程科目：分子機能学I（D39）として扱います

問い合わせ

渡邊 征爾（生命科学講座（化学））

watanabe.seiji@med.shimane-u.ac.jp 内線 2349